

第108期 中間事業のご報告

平成27年 4月 1日～平成27年 9月30日



トヨカネツ 株式会社

(証券コード：6369)

株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第108期の「中間事業のご報告」をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期のトーヨーカネツ・グループの業績は、物流システム事業がほぼ前年同期並みの売上を確保したものの、機械・プラント事業の落ち込みやその他の事業の反動減などに加え、主力事業における採算性が低下した結果、前年同期に比べ減収減益となりましたが、主に物流システム事業の採算性の改善が見込まれており、通期では、当中間期の劣勢を挽回できる見通しであります。

今般、株主の皆様への利益還元をさらに充実させる観点から、本年度より株主還元方針を以下のとおり定めることといたしました。

連結配当性向	20～30%	但し、1株当たり5円を下限とする。
連結総還元性向	50～75%	配当のほかに自己株式取得を機動的に実施。但し、大規模な資金需要が発生した場合にはこの限りではない。

適用期間は平成28年3月期から平成31年3月期までの4期とし、当該期間の終了時点で見直しすることといたします。

当期の配当金につきましては、中間配当を行わず期末配当のみとし、その金額は、この株主還元方針に従い1株につき1円増配となる5円を予定しております。また長期的な視点での株主還元策として、本年5月に自己株式(412万株、金額999百万円)を取得したことに続き、本年11月から来年3月に上限を1,000万株、20億円として実施することを取締役会で決定いたしました。加えて、本年11月には自己株式2,370万株(消却前の発行済株式総数の17.1%)の消却を実施しております。

当期は一昨年にスタートした中期経営計画(2013～2015年度)の最終年度であります。中期経営計画の最終目標である、お客様の信頼を基本とした受注・売上・利益の安定確保と連結業績目標の達成に向けて尚一層の努力を行う所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成27年12月
代表取締役社長 柳川 徹



決算ハイライト

連結決算

(単位：百万円)

経営成績	第107期中間	第108期中間
	(前第2四半期累計)	(当第2四半期累計)
売上高	26,069	23,287
営業利益	2,195	888
経常利益	2,440	1,092
親会社株主に帰属する中間純利益	1,597	541
1株当たり中間純利益(円)	13.72	4.83

(単位：百万円)

財政状態	第107期	第108期中間
	(前期末)	(当第2四半期末)
純資産額	36,580	35,381
総資産額	55,928	54,823

連結財務ハイライト

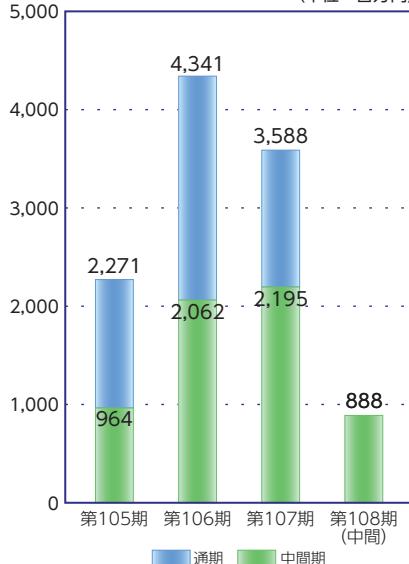
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



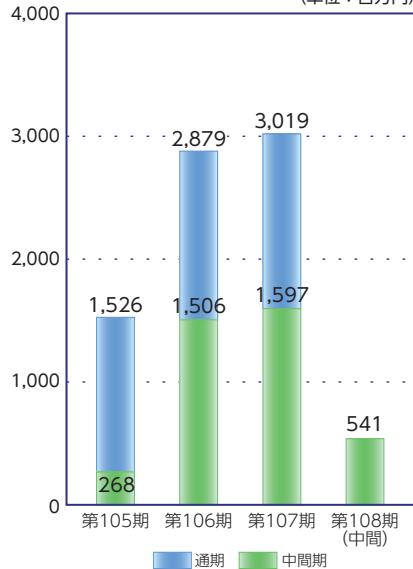
経常利益

(単位：百万円)



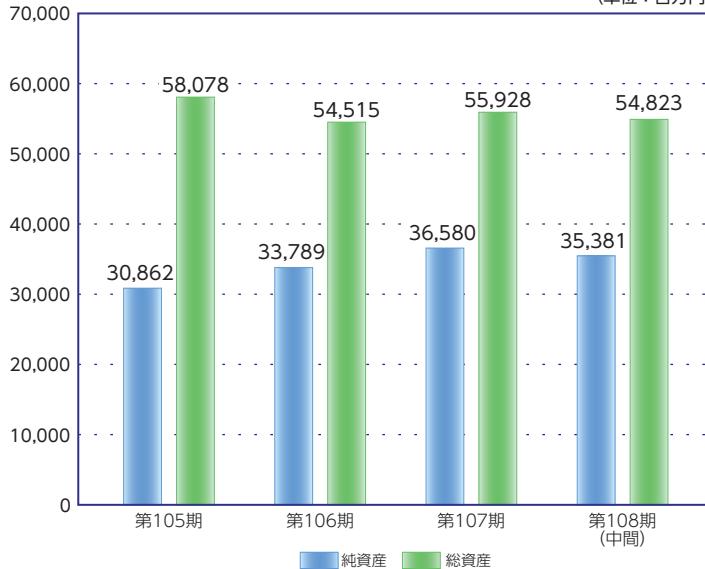
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益

(単位：百万円)



純資産・総資産

(単位：百万円)



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

	第107期 平成27年3月31日現在	第108期第2四半期 平成27年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	33,463	33,049
固定資産	22,464	21,774
有形固定資産	13,577	13,951
無形固定資産	382	336
投資その他の資産	8,504	7,486
資産合計	55,928	54,823

(単位：百万円)

	第107期 平成27年3月31日現在	第108期第2四半期 平成27年9月30日現在
(負債の部)		
流動負債	15,570	15,323
固定負債	3,777	4,118
負債合計	19,348	19,441
(純資産の部)		
株主資本	33,525	32,773
その他の包括利益累計額	2,814	2,608
非支配株主持分	240	—
純資産合計	36,580	35,381
負債純資産合計	55,928	54,823

連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

	第107期 第2四半期累計 平成26年4月1日 ～平成26年9月30日	第108期 第2四半期累計 平成27年4月1日 ～平成27年9月30日
売上高	26,069	23,287
売上総利益	4,316	2,966
販売費及び一般管理費	2,121	2,078
営業利益	2,195	888
営業外収益	274	282
営業外費用	29	77
経常利益	2,440	1,092
特別利益	8	8
特別損失	0	53
税金等調整前四半期純利益	2,448	1,047
法人税、住民税及び事業税	884	402
法人税等調整額	△55	113
四半期純利益	1,619	531
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	△9
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,597	541

通期見直し(連結)

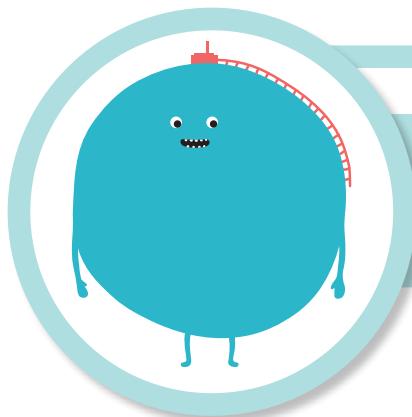
(単位：百万円)

	第107期実績 平成26年4月1日 ～平成27年3月31日	第108期見直し 平成27年4月1日 ～平成28年3月31日
連結 売上高	52,457	49,100
営業利益	3,588	2,600
経常利益	3,891	2,900
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,019	2,090

オリジナルキャラクター「タンくん」「ブツリューくん」がデビュー

当社グループはこのたび、主力事業のマスコットキャラクターを起用した広告やプロモーション展開を開始いたします。

当社グループは、平成28年度(2016年度)に創業75周年を迎えます。これを機に当社グループのさらなるブランドイメージ向上と、これまで築き上げてきた信頼をもとにお客様・お取引先企業・地域の方々や就職活動をされている皆様、グループ従業員などステークホルダーに、社内外を問わずさらに親しまれる企業となることを目指して、主力事業のマスコットキャラクター「タンくん」「ブツリューくん」を設定いたしました。



タンくん

タンクをモチーフにした「タンくん」は、キャラクターにしたときに一番シンプルな形になるよう、球形タンクをモチーフに採用しました。球体のキャラクターだけでは個性が出ないので、球形タンクに備え付けられているハシゴを「タンくん」の特徴として加えました。



ブツリューくん

恐竜の中で一番認知度があると思われるティラノサウルスをモチーフに採用した「ブツリューくん」は、物流と恐竜をかけて命名されました。空港などのコンベヤを背びれに見立て、個性を加えています。

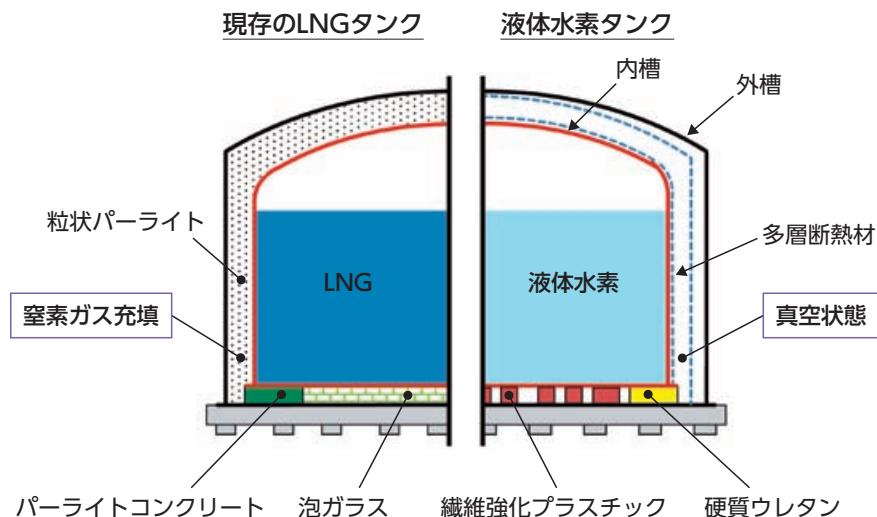
「タンくん」「ブツリューくん」は今後、主力事業の内容をより解りやすく伝えるため、カタログや各種広告など販売促進活動の場を中心に活躍していく予定です。どうか温かく見守ってください。

世界最大の液体水素タンク建設を目指し、東工大と共同開発

当社は、東京工業大学（東工大）の井上剛良教授（熱工学）及び轟章教授（構造制御）との間で、世界最大の液体水素タンク建設を目指した共同開発に着手いたしました。今後3年間で、現在の世界最大容量をはるかに凌ぐ1万立方メートル級タンクの建設を可能にするのが目的です。経済産業省の「水素・燃料電池戦略ロードマップ」によると、水素供給チェーンの実用本格化は2030年ごろとしており、液体水素を利用した火力発電市場が形成される見通しです。大型の液体水素タンクは、そのための重要インフラとなります。

当社は、液化天然ガス（LNG）タンクで世界有数の施工実績を誇っております。液体水素は、LNGの零下162度よりさらに低温の零下253度で保管しなければならないため、魔法瓶のような真空層を設けて断熱する必要があります。巨大タンクですので、高断熱・高強度を持つ保冷構造を施工実現性とコストダウンを並行しながら開発しなければなりません。また、水素は分子量が小さいため、貯蔵の信頼性を高める溶接・検査技術のブレークスルーも必要となります。これらの課題を、東工大とともに解決しながら、多くの実績を持つLNGタンクと同形式である平底円筒型の大液体水素タンクを開発し、実機建設を目指します。

日本政府は2050年までに温室効果ガスの80%削減を目指しており、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）によると、わが国の水素・燃料電池関連の市場規模は2030年に1兆円程度、2050年に8兆円程度と試算されています。当社はこれまで、原油・ガスなどのタンクを国内外で5700基あまり納めてまいりました。特に低温、極低温のタンクについては世界トップレベルの技術を有しており、水素エネルギーの拡大を見据えて、タンク技術で社会貢献してまいります。



物流システム事業

NEDO「ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト」に採択

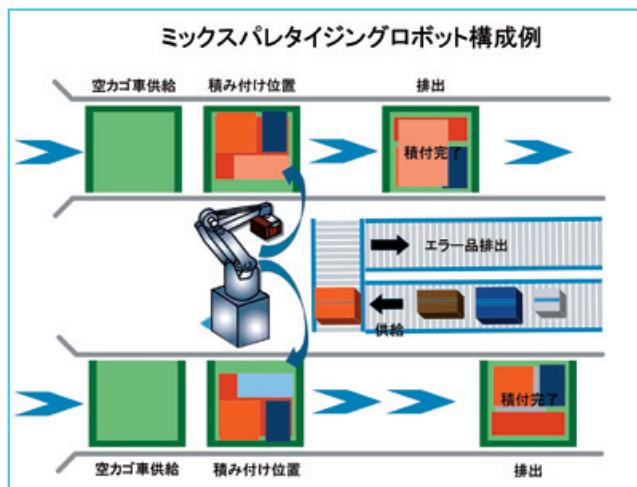
中期経営計画（2013～2015年度）において、「戦略的技術開発」を推進してまいりました。その一環として、流通業界等の配送センターにおいて依然として人手で行っている積み付け作業等を自動化すべく「マテハンシステムへのロボット組込・融合技術開発」を進めてまいりましたが、このたび国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト」の助成対象に決定いたしました。

流通業界等の配送センターでは、荷物の保管・仕分け機能に関しては高度な機械化が進む一方、最終的な出荷段階におけるカゴ台車（荷物を運搬するための台車）等へのパレタイジング（積み付け作業）や、ピースピッキング（一つ一つの注文や要求に対して、対象品物を在庫から運び出す作業）は、取り扱う品物が多品種化しています。そのため、サイズ・形状が多岐にわたり、高度な認識・把持技術が必要とされることから、自動化は容易でなく、重労働であるにも

関わらず、依然として人手による作業で行われています。

そこで、当社は、「高積載率ミックスパレタイジングロボット」及び「高精度ピースピッキングロボット」の開発を進めてまいります。「高積載率ミックスパレタイジングロボット」は、安価な認識手段を活用し、作業対象物をカゴ台車等に最適に積み付けるロボットシステムです。「高精度ピースピッキングロボット」は、高度な認識・把持技術を用いることなしに、ロボットで確実に一つの商品のみを取り出すロボットシステムです。

これらの技術開発により、空港内におけるスーツケースのハンドリングや製造ラインにおけるより高度な部品のハンドリング等、様々な分野で応用可能となるため、本件技術を活用し、お客様を取り巻く環境変化に対応する多様なソリューションを展開し、競争優位性を高めてまいります。



イメージ図1
多種多様なサイズの商品をパレタイジングするロボット

イメージ図2
ピースピッキングロボット

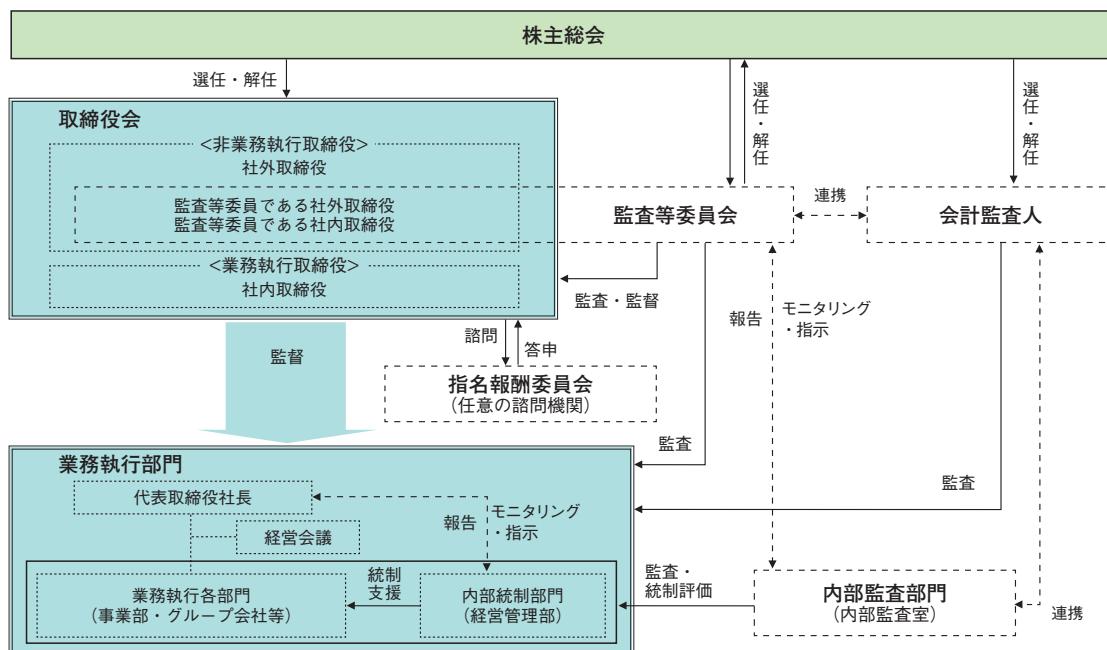


コーポレートガバナンス・ガイドラインを制定しました

当社は、グループ経営ビジョン（「安定した収益体質を有する企業グループの確立」）の実現に向け、株主、顧客・取引先、従業員、債権者、地域社会等全てのステークホルダーの視点に立った経営を行い、経営の効率性・健全性・透明性を確保するとともに、的確な意思決定、迅速な業務執行、並びに適切な監督・監視等を可能とするコーポレートガバナンス体制を整備してまいりました。

このような中、平成27年6月26日開催の定時株主総会において定款変更決議に基づく監査等委員会設置会社への移行を決定し、コーポレートガバナンス・コードの諸原則も踏まえ、より実効性の高いコーポレートガバナンス体制の構築に取り組んでおり、その基本的な考え方及び取組み姿勢を明らかにするため、コーポレートガバナンス・ガイドラインを制定いたしました。（コーポレートガバナンス・ガイドラインの詳細は当社ホームページ「プレスリリース」をご覧ください。）

当社は、本ガイドラインに定める事項の実践を通じて、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応えるとともに、社会的責任及び公共的使命を十分認識し、健全で持続的な成長が可能な企業を目指してまいります。



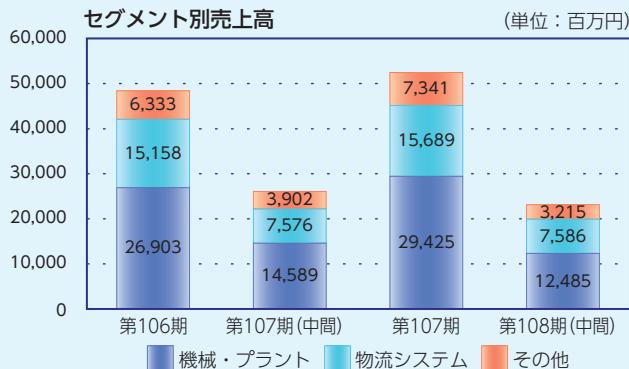
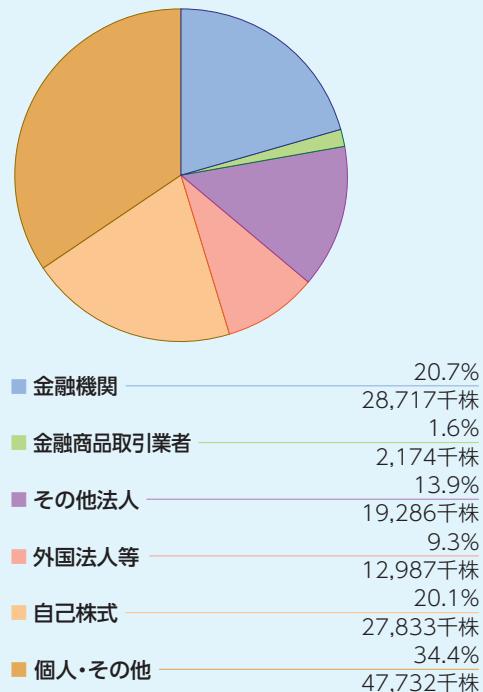
セグメント別営業の概況

株式の状況

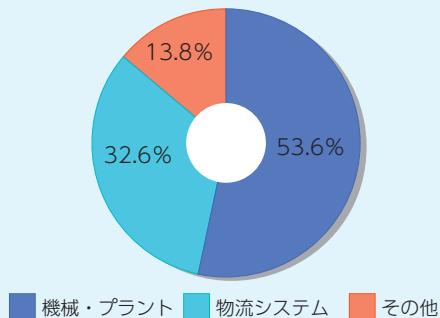
平成27年9月30日現在

発行可能株式総数 297,000,000 株
 発行済株式総数(自己株式を含む) 138,730,741 株
 株主数 14,358 名

所有者別株式分布状況



セグメント別売上高構成比



※内部売上高または振替高を消去する前の数値に基づき表示しています。

商号 トーヨーカネツ株式会社
TOYO KANETSU K.K.
設立年月日 昭和16年5月16日
資本金 185億80百万円
所在地 東京都江東区東砂八丁目19番20号
事業所 本社 東京都江東区
千葉事業所 千葉県木更津市

役員
代表取締役会長 水上 健
代表取締役社長 柳川 徹
取締役兼専務執行役員 有田 貞雄
取締役兼専務執行役員 藤吉 昭二
取締役兼専務執行役員 下前 功
取締役兼常務執行役員 武田 正之
取締役兼常務執行役員 児玉 啓介
取締役(常勤監査等委員、委員長) 阿部 和人
社外取締役(監査等委員) 樋渡 利秋
社外取締役(監査等委員) 永井 庸夫
社外取締役(監査等委員) 中村 重治

グループ会社一覧

平成27年9月30日現在

機械・プラント事業

- トーヨーカネツインドネシア社
- トーヨーカネツシンガポール社
- ティーケーケーユーエスエー社

インドネシア
シンガポール
アメリカ

物流システム事業／機械・プラント事業

- トーヨーカネツマレーシア社

マレーシア

物流システム事業

- トーヨーカネツソリューションズ株式会社

東京都江東区

その他の事業

- トーヨーコーケン株式会社
- トーヨーカネツビルテック株式会社
- 株式会社トーヨーサービスシステム

東京都江東区
東京都江東区
東京都江東区

ホームページのお知らせ



TOP画面



IR情報ページ

<http://www.toyokanetsu.co.jp/>
当社に関する情報がご覧になれます。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

配当金受領
株主確定日

期末配当金	3月31日
中間配当金	9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人・
特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL
<http://www.toyokanetsu.co.jp/>

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

(ご案内)

少額投資非課税制度口座(NISA口座)における配当等のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関(証券会社等)を通じて配当等を受け取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。なお、期末または中間配当金につき「株式数比例配分方式」をご利用いただくためには、それぞれ左記の期末または中間の「配当金受領株主確定日」までにお手続きを完了しておく必要がございますのでお気を付けください。

また、ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は「株式数比例配分方式」をお選びいただくことが出来ませんのでご注意ください。

NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問合せください。

トヨカネツ 株式会社

本社 〒136-8666 東京都江東区東砂八丁目19番20号
TEL.03(5857)3333(代表) FAX.03(5857)3170



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

